

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	経済学研究科
評価基準 5	学生の受け入れ
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
評価の視点	求める学生像の明示
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
	障がいのある学生の受け入れ方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
評価の視点	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	<p>・経済学研究科では、大学院学則に定められた教育研究上の目的を踏まえて、求める学生像の明示および当該課程に入学するにあたって修得しておくべき知識等の内容・水準の明示については、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）として、以下のように明文化し、公表している。</p> <p>[博士課程前期課程]</p> <p>経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、以下のような学力および意欲を有する人を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学およびその関連分野を学ぶのに十分な基礎学力と研究心を有する人。</li> <li>2. 日本経済および国際経済の中で生起する経済現象や諸問題を研究したい人。</li> <li>3. 高度専門職業人や研究者に必要な専門知識・能力を身につけたい人。</li> <li>4. グローバルビジネスを担うために必要な実践的専門知識・能力を身につけたい人。</li> <li>5. 国際社会で通訳者として業務に従事するのに必要な語学力および実践的専門知識・能力を身につけたい人。</li> <li>6. 国内・国外の公的機関の専門職に従事するのに必要な専門知識・能力を身につけたい人。</li> </ol> <p>[博士課程後期課程]</p> <p>経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、以下のような学力および意欲を有する人を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学およびその関連分野に係る研究科博士課程前期課程（または修士課程）の修了者またはこれらと同等の専門知識・能力を有し、旺盛な学問的探究心と研究を仕上げる強い意思をもつ人。</li> <li>2. 外国語文献に取り組み、研究を進めるための外国語能力（留学生の場合は十分な日本語能力）と十分な読解力をもつ人。</li> <li>3. 経済学およびその関連分野の研究者を目指す人。</li> <li>4. グローバル社会において、国際的なビジネス、経済協力、経済開発などの高度に専門的な職業に従事することを目指す人。</li> <li>5. 国内・国外の研究機関または公的機関の研究職、高度専門職等に従事することを目指す人。</li> </ol> <p>・障がいのある学生の受け入れ方針については、特に定められておらず、今後の課題である。</p>																																											
5-2	<p>・入学者選抜については、公平性と透明性の原則に則り、適切に行われている。</p> <p>・学生募集にあたっては、大学院ホームページ『大学院案内』『大学院入試要項』などを媒介として、広く広報している。しかしながら、ここ5年ほどの間は、志願者・入学者が激減し、入学定員・収容定員を充足しない年が続いている。経済学研究科では、危機感を抱き、2012年度から研究科独自の大学院進学説明会・個別相談会を前期・後期に実施しているが、抜本的な改善には繋がっていない。</p> <p>表1) 経済学研究科の志願者・入学者の数</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">2009</th> <th colspan="2">2010</th> <th colspan="2">2011</th> <th colspan="2">2012</th> <th colspan="2">2013</th> </tr> <tr> <th>志願者</th> <th>入学者</th> <th>志願者</th> <th>入学者</th> <th>志願者</th> <th>入学者</th> <th>志願者</th> <th>入学者</th> <th>志願者</th> <th>入学者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>博士課程 前期課程</td> <td>14</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>16</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>博士課程</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		2009		2010		2011		2012		2013		志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	博士課程 前期課程	14	7	12	8	16	10	4	2	6	4	博士課程	1	0	1	1	2	2	1	0	0	0
	2009		2010		2011		2012		2013																																			
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者																																		
博士課程 前期課程	14	7	12	8	16	10	4	2	6	4																																		
博士課程	1	0	1	1	2	2	1	0	0	0																																		

後期課程										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(注) 年度ごとの基準日を5月1日とする。

表2) 経済学研究科博士課程前期課程の学生数・充足率

	2009		2010		2011		2012		2013	
	学生数	充足率	学生数	充足率	学生数	充足率	学生数	充足率	学生数	充足率
1年生	7	70%	8	80%	10	100%	2	20%	4	40%
2年生	12	120%	8	80%	11	110%	15	150%	6	60%
計	19	95%	16	80%	21	105%	17	85%	10	50%

(注) 年度ごとの基準日を5月1日とする。

表3) 経済学研究科博士課程後期課程の学生数・充足率

	2009		2010		2011		2012		2013	
	学生数	充足率	学生数	充足率	学生数	充足率	学生数	充足率	学生数	充足率
1年生	0	0%	1	20%	2	40%	0	0%	0	0%
2年生	1	20%	0	0%	1	20%	1	20%	0	0%
3年生	3	60%	4	80%	3	60%	2	40%	1	20%
計	4	26%	5	33%	6	40%	3	20%	1	6%

(注) 年度ごとの基準日を5月1日とする。

・経済学研究科では、社会の要請、大学院進学志願者の減少などを勘案し、社会人に広く門戸を開放しているが、キャンパスの置かれた地理的環境、交通アクセスの問題等の外的要因と社会人学生に対するカリキュラム、授業時間割の配置等で特別な配慮がなされていなかったなどの内的要因により、社会人の志願者および学生が少ない状況が続いている。

・入学者選抜における公平性と透明性を確保するため、入試データを大学院ホームページ、『大学院案内』に掲載し、かつ入試問題についてもホームページ等で公表している。

- 5-3
  - ・在籍学生数の管理については、経済学研究科委員会において毎年度の入学人数を決定し、適正に行っている。しかし、収容定員に対する在籍学生数比率は、かなり低充足率の状態が続いている。
  - 2013年度における収容定員に対する在籍学生数の比率は、①博士課程前期課程では、1年生が定員10人に対して在籍学生数4人、2年生が定員10人に対して在籍学生数6人、総定員20人に対して在籍学生総数10人で、その比率は50%である。次に、②博士課程後期課程では、1年生が定員5人に対して在籍学生数0人、2年生が定員5人に対して在籍学生数0人、3年生が定員5人に対して在籍学生数1人、総定員15人に対して在籍学生総数1人で、その比率は6%である。いずれも2013年5月1日の数値である。
  - ・経済学研究科では、学内推薦制度の活用、独自の進学説明会および相談会の開催その他進学情報の発信強化など通じて志願者の増加を図る取り組みを行っているが、顕著な改善には至っていない。
- 5-4
  - ・学生募集および入学者選抜は、入学者の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されており、年度ごとの自己点検・評価により検証を行っているほか、必要に応じて経済学研究科委員会で適宜見直しを行っている。

**【効果が上がっている事項】**

5-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者受け入れの方針を公表し、求める学生像および入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を明示している。</li> <li>・研究科独自の進学説明会・個別相談会その他広報・情宣活動を強化した結果、博士課程前期課程では多少の効果がみられた。</li> </ul>
5-2	
5-3	
5-4	

**【改善すべき事項】**

5-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生の受け入れ方針を策定する必要がある。</li> </ul>
5-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学説明会・個別相談会その他広報・情宣活動の強化が博士課程後期課程では、改善に繋がっていない。</li> </ul>
5-3	
5-4	

**III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）**

『大東文化大学大学院経済学研究科教育研究所の目的及び学位論文審査基準』 『大東文化大学大学院大学院案内 2013年度』 『大東文化大学大学院入学試験要項 2013年度』 大学院ホームページ 大東文化大学大学院経済学研究科大学院進学説明会開催要項
--

大東文化大学大学院経済学研究科教員面談申込書 2009（平成 21）年度～2013（平成 25）年度学園の現況 2009（平成 21）年度～2013（平成 25）年度大学院学生数一覧（5月1日時点）
---

**【2014年度からの達成目標】**

**【達成目標】** 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	・収容定員を充足する志願者および入学者を確保している。	前年度の数値を上回る数値となっている。	→					
	・障がいのある学生の受け入れの方針を策定する。	経済学研究科委員会で承認され、「大東文化大学大学院経済学研究科の教育研究上の目的及び基本方針」の中に落とし込まれている。	→					
14年度 目標	・収容定員に対する在籍学生数比率の改善に努める。	2013年度の数値を上回っている。	→					
	・障がいのある学生の受け入れの方針を策定するための議論を始める。	経済学研究科委員会の下に策定WGを設け、議論が開始されている。	→					